

## 天 吹

【所在地】鹿児島市上之園町 20 - 17 天吹同好会

【種 別】県指定無形文化財（芸能）

【指定年月日】平成 2 年 3 月 23 日



天吹は「テンプク」又は「テンプツ」と呼ばれ、ホテイチク（コサン竹）を利用して作る三節で表 4 孔，裏 1 孔，長さ 30cm ほどの縦笛である。形は尺八に似ているが，音は尺八より高く，小鳥がさえずるような可憐な音色である。天吹の起源は不明であるが，島津忠良（1492 ～ 1568 年）の時代に存在していたことが史書の記述にある。現在では鹿児島にだけ伝承されている。

江戸時代には，郷中教育の一環として，薩摩琵琶とともに武士の間で伝承され吹奏されていた。明治時代になっても鹿児島市内の学舎で伝授しており，学舎に通う生徒の間で伝承されていた。

しかし明治 30 年代に楽器は勉学の妨げになるとして琵琶・天吹が禁止されると，当時楽譜のない口述による伝承であった天吹は急速に衰退した。

その後，大田良一が伝承していた天吹の奏法と製管法を白尾国利が受け継ぎ，運指表と伝承曲譜を完成した。さらに昭和 56（1981）年に天吹同好会が結成されて現在に至っている。

現在伝承されている曲は，「シラベ」，「ツクネ」，「タカネ」，「アノヤマ」，「イチャナ」，「テンノシヤマ」，「センペサン」の 7 曲である。